



未来への門出に寄せて

短期大学部保育科、歯科衛生科、そして専攻科保育専攻のご卒業・ご修了を迎えられた皆さんに、心よりお祝い申し上げます。あわせて、これまで皆さんを支え、励まし続けてこられたご家族の皆さまに深く感謝申し上げます。そして、学生一人ひとりの成長を支え、日々の教育・指導に尽力された教職員の皆さまに、心より敬意を表します。本学短期大学部の教育は、多くの方々の温かな支えによって成り立っており、その積み重ねが今日という節目につながったことを、改めてありがたく感じております。

保育科・専攻科の皆さんは、子どもの育ちを支えるという使命を胸に、保育の理論と実践を積み重ねてきました。実習では、子ども一人ひとりの姿に丁寧に寄り添い、日々の小さな変化を見つめる感性を磨き、保育者としての温かなまなざしと責任感を育んできました。専攻科では、より高度な専門性や実践力、そして保育者としての倫理観を深め、現場で求められる総合的な力を身につけてこられました。これらの経験は、子どもたちの未来を支える確かな礎となるでしょう。

歯科衛生科の皆さんは、口腔の健康を通して人々の生活の質を支える専門職として、厳格な実習と学修に取り組んできました。歯科医療の現場では、確かな技術と衛生管理の知識に加え、患者の不安に寄り添う姿勢が求められます。皆さんはその必要な力を習得し、専門職としての自覚と誇りを育んできました。地域社会の健康を支えるうえで、皆さんが担う役割は今後ますます重要性を増していくことでしょう。

皆さんは、それぞれの専門領域に応じた学修に真摯に取り組み、特に実習では専門職として求められる知識と技術を着実に身につけてこられました。また、専門性が異なる仲間が同じ学び舎で過ごしたことで、多様な価値観が共有され、一人ひとりの視野を広げる貴重な経験を得たはずです。この経験は、他者を尊重する姿勢を育み、社会に出た後も皆さんを力強く支えてくれることでしょう。専門性の違いを超えて協働する力は、現代社会においてますます求められており、本学での学びがその基盤となることを期待しています。

現代社会は、国際的な対立や分断、誤った認識から生まれる差別など、さまざまな課題を抱えています。理不尽に思える出来事に直面することもあるかもしれません。しかし、それらは同時に「自分はどのように生きたいのか」を問い直す契機にもなります。変化の激しい時代だからこそ、柔軟に考え、しなやかに乗り越える力が求められています。

こうした不確かな時代において、人と人との「つながり」の力は、これまで以上に重要になっています。人間はつながりの中で生きる存在であり、協力し、知恵を分かち合い、対話を重ねることで未来を築いてきました。互いを思いやり、支え合う姿勢は、どのような困難にあっても皆さんを前へと導く大きな力となるはずです。本学で培った仲間との絆は、これからの人生においても皆さんを支える大切な財産となるでしょう。

これから皆さんは、それぞれの専門職として社会へと歩みを進めていきます。本学で身につけた知識と技術、実習での経験、仲間との協働、そして努力を重ねてきた自分自身への信頼が、必ず皆さんを支えてくれることでしょう。誠実さと向上心を胸に、専門職として、そして一人の社会人として、豊かな未来を切り拓いていかれることを心より願っています。

皆さんの今後のご活躍と、これからの人生に多くの幸せが訪れることを祈念し、祝辞といたします。



令和8年3月14日
短期大学部長 田坂 裕子

